
thank you!

南

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

thank you!

【Nコード】

N4555A

【作者名】

南

【あらすじ】

不安で一杯の主人公と彼が電話で会話するお話です。

春なのに、悪い天気。

外は風が強くて薄暗い。

天気が悪いと不安になる。

今の私をそのまま暗い闇で覆ってしまいそうだから。

「春なのになあ」

1人暮らしの部屋も不安を煽って、出す言葉も寂しく響いた。

しばらくの間窓際に座って、

いつか雲がぴゅーっと飛んでいって青空が広がるのを期待していた。

・・・でもなかなか思う通りにはいかない。

「うーん」

眉間にシワを寄せて窓の外を見たら、

外でようやく咲いた花が倒れているのを見つけた。

「咲いたばかりなのに」

外の世界はもう灰色に覆われてしまった。

窓にくっついて花を見ていたら、電話のベルが鳴った。

・・・うるさいな。

ゆっくり手を伸ばして受話器をとる。

「はい？」

「ハルナ、久しぶり。元気？」

そうたずねる、彼の声。

「元気だと思う？」

私の気持ちなんか分からないくせに。

不安で一杯なのだって全然知らないくせに。
少しイラっとして、そっけなく返事をした。

「元気じゃないな」

「コウタは元気なんだね」

攻撃的な言葉でもコウタは怒らない。

「うん、元気。だって今ハルナと話してるから」

「・・・電話でなの？」

「え？」

「だって顔を合わせて話してもないのに・・・気持ちが伝わるわけないじゃない」

なかなか会えない、話せない。

不安で一杯なのもわかってもらえない。

こうやって電話で話したって、寂しさを大きくするだけ。
電話でなんかコウタに私の気持ちは伝わらないよ。

きつとこの後、私も灰色で覆われてしまうんだ。

それが怖くて、不安で仕方が無くて、涙がでてきた。

唇をかねて我慢しても結局溢れてきて、泣いてしまった。

もう、嫌だ。

「ハルナ、今すごい不安？」

「・・・当たり前じゃない」

「でも、大丈夫だから」

「え？」

「会えなくても、声にだって想いはのせられるんだよ？」

「大丈夫だから。電話でも気持ちは伝わるから。大好きだから」

電話から聞こえた声は、春の太陽みたいだった。
不安を取り除いてくれる声。

「電話でも気持ちは伝わるだろう？」

「・・・うん」

「好きだよ」

「・・・うん」

電話でも気持ちは伝わるんだって気付かせてくれた彼。
でも、私がどんなに嬉しいかまでは知らないくせに。

けど

『好きだよ』

その言葉が温かった。

不安になったときは電話して？

その時は私が、この言葉であなたの不安を吹き飛ばすから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4555a/>

thank you!

2010年10月11日02時22分発行